

第六十四回

北村季吟顯彰記念俳句集

江戸時代の俳人・歌人・国文学者

北村季吟

(一六二四〜一七〇五)

北村季吟は、江戸時代の寛永元年(一六二四)十二月十一日に生まれ、近江国野洲郡北村(現・滋賀県野洲市北)を故郷とし、俳人・歌人・国文学者として活躍しました。京都で松永貞徳(まつながていとく)に師事し、二十五歳で俳諧(はいかい)の季題を解説した『山の井』を刊行し、早くに著された季寄集(きよせしゅう)(歳時記)として注目されます。三十三歳で俳諧宗匠(しやう)となり、優れた門人を育て、松尾芭蕉(まつお ばしやう)も季吟から教えを受けています。また、多くの古典文学の注釈書を著し、『源氏物語湖月抄』はその代表作で、後世に読み継がれています。

六十歳の時、和歌にゆかりの深い京都の新玉津嶋神社(にいたまつしま)の社司(しゃじ)となります。六十六歳で、幕府で和歌の指導にあたる初代の歌学方(がくかた)となり、五代將軍徳川綱吉(とくがわつなよし)に仕えました。晩年は江戸で過ごし、宝永二年(一七〇五)六月十五日、八十二歳でその生涯を終えました。以後、歌学方は北村家が世襲しました。



北村季吟(イラスト)

※没後二五〇年にあたる昭和三〇年(一九五五)、北村季吟顕彰会が設立され、句碑が建立されました。以後、毎年六月に追悼法要や顕彰記念事業として俳句開巻が行われています。

北村季吟顕彰記念俳句集

石倉政苑 選

特選

市長賞

待春や老いてまだある好奇心

長浜市長 昌子

今や百歳時代といわれる中で、老いてまだある好奇心とは本当にすばらしいこと。増々元気で人生輝いてもらいたい。

議長賞

未来へと輝やく笑顔一年生

栗東市 井上 松秀

期待や不安の中でも、元気で輝いてもらいたい親心と子どもの元氣と笑顔に喜びあふれる句に拍手。

教育長賞

祇王井の瀬音へ舞ひて里桜

野洲市 小野 恵子

清盛のおかげで出来た水路に白拍子を舞う妓王の姿を桜にたとえ、脈々と瀬音をたてて流れる祇王井川を守り、後世に大切に伝え守られている。

青少年奨励賞 三句

春の星夢に大きく空光る

川越市立
福原中学校

中山 結奈

石鹼玉どこまでいくの問いかける

川越市立
福原中学校

奥富 裕貴

赤くなるもみじと夕日きそいあう

野洲市立
祇王小学校

池田 爽々良

準特選 五句

水澄みて稜線碧き近江富士

野洲市 南井 剛

耕して大地へ光呼び込みて

野洲市 南井 栄治郎

困碁といふ無言の会話縁小春

米原市 成宮 義雄

青き踏む土の匂ひを靴先に

甲賀市 福永 昭子

たんぽぽや今宵は空の星になれ

愛荘町 西村 芳子

入 選 四十七句

どんどの火風に煽られ竜となり

野洲市 吉田 節夫

春の田や鋤かれて匂ひ広これり

大津市 中西 利元

勾玉は胎児の形春の星

大分市 小野 道山

季吟碑の温みかすかに小春かな

長浜市 素 秋

横文字は未だに苦手吾亦紅

野洲市 桜井 雅子

大いなる田をうるほすや春の雨

野洲市 若木 好

ぶらんこや順番待つ子百数え

草津市 西田 舞子

とめどなく上がる花火や血が踊る

京都市 なかじま あゆむ

ドローンより高く上がれや揚雲雀

野洲市 吉田 節夫

針供養白寿に近し鯨尺

越前市 井上 せつ子

腕白の膝のすり傷水温む

長浜市 樋口 満智子

野に満ちて春光力を得つつあり

片言の英語が通じ春の旅

湖おぼろむかし浦辺の丸子舟

大気吸ひ膨らむ早さ木の芽かな

舳押すや湖のさざ波呼びて立つ

弁当の中味見せ合ふ遠足子

嵯峨野路や竹百幹へ春の風

空と湖一線ひきて春兆す

理不尽な事多かりき虎が雨

仕舞屋へ勢ひのまま初つばめ

麦秋や季吟の墓碑にたたずみて

花万朶戦禍知る木と知らざる木

野洲市 森山 直佳子

野洲市 森山 直佳子

野洲市 宮田 絵衣子

甲賀市 井上 万寿江

米原市 林 美恵子

野洲市 米野 達彦

野洲市 米野 達彦

彦根市 大久保 豊子

草津市 吉田 邦子

大津市 竹内 悦子

野洲市 福井 弘一

富山市 谷 雅夫

丸薬の一粒こぼれ春炬燵

近江八幡市

山田 澄子

令和なる祝ふ笑顔や五月晴

栗東市 太田

春陽

四脚門くぐれば椿一重八重

栗東市 笹井

成子

花まつり象引く園児未来引く

愛荘町 北邑

禧史子

八十路越え皺もまた良し初鏡

野洲市 山本

富子

料峭にまだ空白の手帳かな

野洲市 澤本

満代

風船や終の住処の定まらず

草津市 米田

全良

イベントの大道芸や野菊晴

米原市 田辺

仁美

たんぽぽの命つぐ絮風まかせ

野洲市 山本

志を

無住寺に子育て励む夏燕

野洲市 三宅

隼人

溪流の岩間に河鹿輪唱す

野洲市 三宅

隼人

どこまでも歩けそうなり春の風

長浜市 野田

節子

ため息と筆を洗って賀状書く

川越市立
福原中学校

上野

琉大

雪降って遊び次の日定休日

川越市立
福原中学校

山崎

生睦

早梅のくつのかかとをふむ子かな

川越市立
福原中学校

遠藤

梨乃

冬の空赤がたなびく風の中

川越市立
福原中学校

大橋

風花

ピンク色小春日和の風香る

川越市立
福原中学校

引地

七彩

車イス春を推すよ夕暮に

川越市立
福原中学校

武内

飛有真

靴ひもの結ぶ手止まる余寒かな

川越市立
福原中学校

落合

真唯

春の野に二人入れる秘密基地

川越市立
福原中学校

山越

歩実

春愁や風にふかれてなおす髪

川越市立
福原中学校

関根

晴子

山眠り教科書閉じる午後十時

川越市立
福原中学校

中山

友里奈

バレンタインデー開花し恋実る

川越市立
福原中学校

和智

睦乃実

ふるさとのはるをよぶもりかけまわる

野洲市立
祇王小学校

寺村

あかり

総 評

今年で二回目の俳句大会に参加させていただき、感謝申し上げます。テレビの影響もあって沢山の方々の投句、俳聖の芭蕉の師、北村季吟を大切に継承する皆様の熱意を目の当たりにして伝統の重みを強く感じております。俳句大会らしい句材の広がり、また、新しい作品にも出会い、選の難しさの中で楽しませて頂きました。今後、益々のご発展を願います。私の総評と致します。

選者吟

窯跡の土の匂ひや落の臺

野瀬章子 選

特選

市長賞

困碁といふ無言の会話縁小春

米原市 成宮 義雄

「無言の会話」とは旨く言いましたね。決着がつくまでまだまだまだ時間がかかりそう。縁小春がすべてを語っています。

議長賞

薔薇園をめぐる一団車椅子

彦根市 前川 管子

薔薇園をめぐる一団、一花一花異なる花にそれぞれの名前もあり、香りも様々。車椅子を必要とする人にとっても至福の時間。

教育長賞

精一杯生きて悔いなし目刺焼く

野洲市 山本 富子

天職とも、自分なりに努力に努力を重ねて今日がある。作者は誠実な方と思う。「目刺焼く」がいいですね。

青少年奨励賞 三句

早梅のくつのかかとをふむ子かな

川越市立
福原中学校

遠藤 梨乃

雷の窓からきえるけしきかな

川越市立
福原中学校

宮川 吏暖

赤くなるもみじと夕日きそいあう

野洲市立
祇王小学校

池田 爽々良

準特選 五句

筍の命の丈を探りをり

野洲市 田中 郁子

佐和山の城なき道の片かげり

野洲市 南井 耕治

沖島の出舟入舟花曇

野洲市 吉田 節夫

祇王井の流れを今に桜咲く

湖南省 池谷 百々代

教室の眠くなる椅子花の昼

福井市 高石 まゆみ

入 選 四十七句

樹木医としての歲月鳥帰る

高島市 浩

缶ひとつ転がる売地下萌る

日野町 皆川 規子

風通す窓全開のみどりの日

草津市 山根 悠翁

故郷の土の甘さのトマトかな

栗東市 葛城 巖

大鍋に煮立つお斎や親鸞忌

野洲市 吉田 節夫

月明り頼りに野小屋鍵を掛く

野洲市 吉田 節夫

引鴨の羽ばたき聞こゆ浦住居

米原市 北村 富士子

目貼りして己が居場所となりにつけり

長浜市 川瀬 正子

春の田や鋤かれて匂ひ広これり

大津市 中西 利元

笑ひ声こぼれておりし春障子

甲賀市 東 美智代

大いなる田をうるほすや春の雨

野洲市 若木 好

溪流やひかり釣り上ぐ鮎の竿

東近江市 村松 文雄

本堂は日曜学校小鳥来る

あわらし市 木幡 嘉子

季吟忌や花鳥の空と風を詠む

熊谷市 天貝 弘人

うかうかと出て露の臺摘まれたり

大野市 石田 秋桜

鷺一羽思案にくれる冬田かな

野洲市 南井 耕治

子は嫁ぎ居間広々と余寒かな

野洲市 吉田 節夫

段畑に土筆畳の展がれり

草津市 竹内 恵子

ねこじゃらし風呼び易く揺れ易く

米原市 日比 陽子

保健室登校つづけ卒業す

鈴鹿市 古川 和子

比良の山暮れて万物凍てるなり

東近江市 宮崎 はまゑ

伴奏は師のハーモニカ卒業す

野洲市 小野 恵子

湖に背を向ける大仏よなぐもり

彦根市 松本 いづみ

風鐸の揺るる古刹や緑立つ

篝火に鬼面浮き立つ薪能

何事もなく過ぎにけり彼岸かな

今朝の駅新入社員溢れだす

日向ぼこ無心の時を刻みけり

春寒の雨に一人の夕餉かな

爽やかに風にそひゆく一歩かな

春の雲つらぬく一条飛行機雲

焼き跡の角組む蘆にある勢ひ

一日ごと落ち葉踏む音深くなり

ふわりきて肩にとどまる螢かな

雪降りて余呉湖静寂を深めけり

草津市 吉田 邦子

富山市 谷 雅夫

甲賀市 桑田 美智子

野洲市 林 美喜

甲賀市 菊地 弘恵

野洲市 伊東 裕子

米原市 田辺 仁美

野洲市 松尾 順子

彦根市 寺村 澄子

草津市 福島 翔

野洲市 松尾 順子

湖南市 池谷 百々代

帰り道川を見下ろす遅き春

川越市立
福原中学校

榎本 直哉

べビーカーその中にいる磯焚火

川越市立
福原中学校

佐藤 琉晟

おそき春思いをのせて帰る君

川越市立
福原中学校

津田 栄希

家の中電気灯さず春の暮

川越市立
福原中学校

内田 桃菜

靴ひもの結ぶ手止まる余寒かな

川越市立
福原中学校

落合 真唯

春の野に二人入れる秘密基地

川越市立
福原中学校

山越 歩実

春愁や風にふかれてなおす髪

川越市立
福原中学校

関根 晴子

石鹼玉どこまでいくの問いかける

川越市立
福原中学校

奥富 裕貴

窓開けて風を感じる寒さかな

川越市立
福原中学校

長嶋 淳

かなかなが奏でる曲は悲恋かな

川越市立
福原中学校

樋口 大斗

ねえりすさんぼくにもそのくりちようだいよ

野洲市立
祇王小学校

戸田 優心

ふるさとのはるをよぶもりかけまわる

野洲市立
祇王小学校

寺村 あかり

総評

平成から令和の御代となる輝かしいとき、季吟祭に参加させていただき栄を賜りました。十日間のゴールデンウィークを大方費やし、懸命に選をさせていただけました。一般はもとより、青少年の応募もあり、喜ばしいことと思います。沢山の名句にも会いました。

俳句には幾つかの約束ごとがあり、出句されるととき、今一度ご自分の句を声にして読まれることを希望します。

選者吟

残雪の比良かがやかに威を放つ

藤野鶴山 選

特選

市長賞

季吟の忌令和に尚も弥栄ゆ

長浜市 雨森 多鶴

季吟忌のことを直接詠んだ句が本年多かった訳ではないが、中でも新しい年号の令和を受けて、尚共に今後も立派でありたいとした本句を先々の弥栄を祝ぎ、やはり特選にいただいた。

議長賞

涅槃像めき対岸の雪の比良

野洲市 吉田 節夫

対岸とあるので、琵琶湖東岸、なかんずく草津・守山・野洲方面から詠んだ一句と解した。冬季には、対岸の比良は真白く雪を戴き、丁度寝釈迦めいて見える景を一句に捉えた…。

教育長賞

無印の私の一生母子草

福井市 横川 一子

ゴギョウともいわれ春の七草の一つである「母子草」は、昔は草餅にも使われた程清楚な花である。花言葉は、「無償の愛」であるという。自分の一生をこの花のようだとするお心に頭が下がる。

青少年奨励賞 三句

あきによるいろんなむしのハロウィンだ

野洲市立
祇王小学校

野村 晃平

ふるさとのはるをよぶもりかけまわる

野洲市立
祇王小学校

寺村 あかり

夜桜の足音はずむ花かおる

川越市立
福原中学校

佐藤 凜

準特選 五句

銀輪を連ねビワイチ草青む

野洲市 吉田 節夫

困碁といふ無言の会話縁小春

米原市 成宮 義雄

黒竜江越えて湖北のコハクチョウ

野洲市 南井 耕治

ゆく雁や一鳴湖に落としをり

野洲市 吉田 節夫

鉄の雨降りしを語る原爆忌

彦根市 寺村 澄子

入 選 四十七句

一望の冬田となりて風遊ぶ

野洲市 南井 栄治郎

佛の間菜の花明りある夕べ

甲賀市 桑田 美智子

入梅の雑木山より水の音

栗東市 葛城 巖

迫り上がる雲に押されて富士登山

野洲市 吉田 節夫

彦星の恋は豪雨に流れけり

野洲市 吉田 節夫

引鴨の羽ばたき聞こゆ浦住居

米原市 北村 富士子

明日手術眠れざる夜の虎落笛

米原市 成宮 義雄

うみの子の湖を讃へし卒業歌

高島市 駒野 牧堂

つちふるや比良の山なみ色淡し

野洲市 南井 耕治

漢方の丸薬苦し涅槃西風

野洲市 宮田 絵衣子

里坊の穴太石積み木の芽風

甲賀市 柄川 由紀子

嵯峨野路や竹百幹へ春の風

野洲市 米野 達彦

月朧比叡とろりと暮れにけり

野洲市 米野 達彦

節くれの指より奏づ祭笛

若狭町 古川 泰石

波のたりのたりと蓮の葉を揺らす

湖南省市 岡崎 達栗

春雷のごろんと鳴りて後の黙

草津市 山本 絹代

花万朶戦禍知る木と知らざる木

富山市 谷 雅夫

令和なる祝ふ笑顔や五月晴

栗東市 太田 春陽

四脚門くぐれば椿一重八重

栗東市 笹井 成子

白髪も皺も勲章敬老日

愛荘町 北邑 禧史子

病棟にかすかな寢息花の昼

野洲市 澤本 満代

冬ざれの最果ての駅おりにけり

野洲市 福井 弘一

メタセコイヤ芽を吹く形にととのひぬ

日野町 白井 由紀子

去りがたしゆきてまた来る鬼ヤンマ

野洲市 秘人

豊饒の湖に未練や残る鴨

野洲市 三宅隼人

輪唱の止まぬ水田や夕蛙

野洲市 深田清志

風光る水田に逆さ近江富士

野洲市 吉田節夫

蝶いでて畦に名もなき花のおれ

栗東市 西田和子

綴じ代の固き句帳や初句会

野洲市 村井敦子

パドックの馬のリズムや風光る

野洲市 村井敦子

奥琵琶に声をひろげて鳥帰る

長浜市 勝木岩松

一日ごと落ち葉踏む音深くなり

草津市 福島翔

モノクロの景色に独り雪の駅

草津市 福島翔

天頂に富士の眞姿寒晴るる

甲賀市 福永昭子

観音に春をしぐるる湖北かな

長浜市 野田節子

早梅のくつのかかとをふむ子かな

川越市立
福原中学校

遠藤 梨乃

自転車のかごに集めた花柎

川越市立
福原中学校

榛原 未歩

着いてすぐ海月踏むなり磯遊び

川越市立
福原中学校

山崎 真拓

靴ひもの結ぶ手止まる余寒かな

川越市立
福原中学校

落合 真唯

瓦屋根春風香る歌ってる

川越市立
福原中学校

富澤 花凜

雪積もるそつとすくえば水の泡

川越市立
福原中学校

生江 海凪

梅林のお店に売ってる日本色

川越市立
福原中学校

大田 瑞桜

雛祭り楽しみ一つひなあられ

川越市立
福原中学校

岡元 祐樹

夜おいたうぐいすもちの味のこる

川越市立
福原中学校

瀬戸口 創太

かなかなが奏でる曲は悲恋かな

川越市立
福原中学校

樋口 大斗

入店のベルは南風の仕業です

川越市立
福原中学校

湊名 萌永

ねえりすさんぼくにもそのくりちようだいよ

野洲市立
祇王小学校

戸田 優心

総 評

六十四回の季吟祭俳句大会を迎えます本年は、平成時代を終り、令和の
新時代を迎えることとなりました。

これ迄を色々反省しつつ六十三年間が経ちましたが、本年より元号も
変わり心新たにこの歴史ある事業が継続されて行くことと思えます。
今後、益々のご参加をお願いして本年のご挨拶と致します。

選者吟

新元号制定なりし日の新樹

俳句選者（五十音順）

石倉政苑

野瀬章子

藤野鶴山

（敬称略）

第六十四回

北村季吟顕彰記念俳句集

総投句数 千三百七十六句（一般千二百五十三句、青少年百二十三句）
投句者数 二百七十人（一般百四十七人、青少年百二十三人）

発行日 令和元年六月十五日
発行者 北村季吟顕彰会

〒五二〇、二三九五

滋賀県野洲市小篠原二一〇〇番地一
野洲市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課内
TEL 〇七七、五八七、六〇五三
FAX 〇七七、五八七、三八三五

主催 北村季吟顕彰会
共催 野洲市・野洲市教育委員会・野洲市北自治会
主管 野洲市教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課
協力 北村季吟生誕の地北遊遊俱樂部・ウイズ・ユー（順不同）



市章：デザインの趣旨

野洲市の「や」をモチーフに、躍動感溢れるイキイキとした『人』と、ときめきを象徴とした『ハート』を表現しました。

また、環を表現した2つのラインは、緑が豊かな自然、古典的な色が歴史を意味します。

それらは互いに交差し、関わり合い、彩られながら、人(ハート)をときめかせています。